

	山形大学 工学分野
学部等の教育研究 組織の名称	工学部（第1年次:570） 工学部【夜間】（第1年次:50） 大学院理工学研究科（M:323 D:31）
沿 革	明治43（1910）年 米沢高等工業学校創立 昭和24（1949）年 新制山形大学工学部設置 昭和39（1964）年 大学院工学研究科修士課程設置 平成5（1993）年 大学院工学研究科修士課程を廃止し、工学研究科博士 前期課程・後期課程に再編 平成11（1999）年 大学院理工学研究科博士前期課程・後期課程設置
設置目的等	<p>山形大学工学部・大学院理工学研究科の母体である米沢高等工業学校は、工業技術の量的及び質的發展を目的として明治43年に設置された。</p> <p>新制国立大学の発足時には、米沢高等工業学校は、山形大学工学部として承継された。</p> <p>昭和39年に、種々の分野で先端科学技術を将来にわたり維持し発展させるために、広範な基礎学力に基づいた高度の専門知識と能力を備えた柔軟で独創性豊かな科学者及び技術者の養成を目的に、大学院工学研究科修士課程が設置された。</p> <p>平成5年に、21世紀を先導できる創造力と適応力、実行力に富んだ高度技術者・研究者を養成することを目的に大学院工学研究科博士前期課程・後期課程に再編された。</p> <p>平成11年に、基礎と応用が有機的に連携した教育研究体制を通し、これまでの基本的発想を変えるような自然認識と、それらを基盤とした学術研究の更なる充実や独創的な研究開発能力と広い視野を持つ高度技術者・研究者の養成を図ることを目的に、大学院理工学研究科博士前期課程・後期課程が設置された。</p>
強みや特色、 社会的な役割	山形大学は、社会を豊かにする技術の創造を目的に、基礎と応用が有機的に連携した先端学際分野の教育・研究拠点として、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。

- 産学官に金(金融)を加えた連携を活用した実践的教育によって、価値ある技術の創造と様々な技術のステージで主導的な役割を担うことができる高度な技術者等の育成の役割を果たすとともに、国際性に優れ産業界で活躍できる高度な研究能力を有する先導的な人材育成の役割を果たす。
- 今後とも、産業界と連携した実践的教育、学科横断的なものづくり教育、教育カリキュラムのフレキシブル化、5年一貫の博士課程教育、主専攻副専攻制による大学院教育などの特色ある教育や国際的な通用性のある認定プログラムを積極的に推進してきた実績を生かして教育改革を進め、最先端の研究環境を活用して、グローバルに活躍できる工学系人材として必要な能力を身につけることができる学部・大学院教育を推進する。
- 複合材料、高分子化学分野を中心とした材料科学分野、特に世界トップクラスの有機材料や有機エレクトロニクスなどの高い研究実績と、それを支える全学的な支援体制と施設・設備の充実度、及び研究組織強化の実績を生かし、新しい学問領域である「フロンティア有機システムの創生」を目指して、有機材料とこれを基盤とする機械・電気電子・情報システムの開発など先端的な研究を推進する。
- 教員一人当たりの高い受託研究・共同研究の受け入れ実績を踏まえ、今後とも我が国の産業を支える実践的な研究等の取組を一層推進する。
- 企業との研究協定、地元企業とのマッチング事業、官との共同事業・交流協定などの実績を踏まえ、産学官金による連携のプラットフォームの中核を担い、イノベーションエンジンとして社会を豊かにする技術の創造と新たな産業の創成に貢献する。
- 社会人向け技術講習会や育成事業、国際化されたMOT分野の社会人受入れ、留学生の地域企業への就職などの実績を生かし、地域人材・アジア人材を育成する。
- 理科教室、一日科学体験、出前講義、研究室見学受入れなどの実績を踏まえ、地域の理工系教育の中心としての役割を果たす。
- 海外提携校との学生交流や研究交流、留学生受入れの実績を生か

	し、他大学との英語教育連携などを推進して、国際社会で活躍できる人材の育成に取り組む。
--	--